

2022.9.12

## ご報告：9/11 第 37 回働学研（博論・本づくり）研究会

十名 直喜

第 37 回働学研は 9/11（日）13 時半～17 時に、文化政策・まちづくり大学校&国際文化政策研究教育学会の研究大会（9/10-11）の一環として開催されました。

今回は、社会人研究者 3 人のライフワーク出版、その同期化を記念しての特別企画です。3 冊の書評会&シンポジウムが、2 部編成として行われました。

第 1 部 ライフワーク出版 3 冊の書評&リプライ（司会：太田、画面：澤）

第 2 部 ライフワーク出版記念シンポジウム（15:30～17:00 司会：十名、画面：澤）

発表資料は、第 1 部が書評 3 本&リプライ 3 本、第 2 部が出版物語 4 本、計 10 本に上ります。9 月 6 日、会員&学会員向けに開示されました。実は、その他にも発表資料数本をいただいていたいました。時間的な制約を鑑み、割愛させていただいた次第です。

実は、出版がいずれも 1 カ月以上遅れ、書評会&シンポジウムの開催も風前の灯火に。それを乗り越えたのが、著者&書評者 6 人&事務局の驚くべき協働力と早業、創意工夫でした。1 週間余で、10 本の資料が揃ったのです。

働学研 3 年余においても、比類のない奇跡的な成果と感じています。

社会人研究者にとって、仕事と人生、いわばライフワークを賭けた挑戦とは何か。その結晶ともいえるのが、単著書の出版です。

横田幸子著の 7 月末出版に続き、濱真理著の本も 8 月末に出版されました。熊坂敏彦著の出版が遅れていて、9 月に出版されます。

社会人研究者によるライフワーク出版が相次ぎ、（本づくり）研究会としても実を成しつつあります。程遠紅さんの大作＝博士論文も完成し、9 月に学位申請の予定です。

汗と涙の結晶、ライフワーク出版のもつ意義は何か。働きつつ学び研究することの 21 世紀的意味は何か。学びあい育ちあう研究者として、社会人、大学人が一緒になって考え、深める機会となりました。

ご参加いただきました下記 35 名に、お礼申し上げます。

（敬称略：池上、池田、岩田、太田、小野、片山、金井、岸本、木林、熊坂、後藤、小宮、近藤、佐藤、澤、白石、杉山、高松、多田、程、富澤、中川、中谷、野間口、波多野、濱、平松、藤井、藤岡惇、藤岡純、堀、三輪、安嶋、横田、十名）

9 月 11 日 午後 13:30～17:00

ライフワーク出版記念書評会&シンポジウム（司会：太田、十名、画面：澤）

## 第1部 ライフワーク出版3冊の書評&リプライ (13:30~15:30 司会：太田)

横田幸子[2022.7]『人類進化の傷跡とジェンダーバイアス 一家族の歴史の変容と未来への視座』社会評論社 書評：波多野進 リプライ：横田 討議

濱 真理[2022.8]『市民と行政の協働 一ごみ紛争から考える地域創造への視座』社会評論社 書評：藤井敏夫 リプライ：濱 討議

熊坂敏彦[2022]『循環型地場産業の創造 一持続可能な地域・産業づくりに向けて』社会評論社 書評：太田信義 リプライ：熊坂 討議

40分/本(=書評15分~20分+リプライ10分~15分+討議5~15分)×3本=120分

## 第2部 ライフワーク出版記念シンポジウム (15:30~17:00 司会：十名、画面：澤)

横田幸子：「ライフワーク出版に至る半世紀の歩み 一守・破・離の視点から」

濱 真理：「博士論文&単著書出版に至る人生浄瑠璃」

熊坂敏彦：「古希記念・単著書出版への道 一 構想から実現に至る8年間の軌跡」

十名直喜：「「働学研」運動と社会人研究者のライフワーク出版

一 出版同期化の歴史的意義と未来への視座」

発表60分(=15分/本×4本)+全体討議30分=90分

### <参加者&発表者からの感想>

第1部、2部の発表をふまえ、仕事と人生を深掘りし理論化・体系化・政策化することの意味を、3人の出版&博論物語を題材にしながら語り合う。その余韻は終了後も続き、多くの方から熱いメッセージをいただく。そのうちのいくつかを紹介させていただきます。

「それぞれの書評とそのリプライ、とても刺激的でしたが、加えてこういう形式がオンラインで可能になるというのがよくわかりました。「切磋琢磨する同好の集まり」の姿がくっきりあらわれたような印象を持ちました。」(高松平蔵、ドイツより)

「とても良い企画で、長時間でしたが、まだまだ、時間が足りないくらいに思いました。とても良い時間が共有できたと思います。新たな学びの形や出版の形が見えてきた感じがしました。」(冨澤公子)

「さまざまな経歴をもった方々が参加されて学びをされていること、本当に素晴らしい「創造の場」であると思いました。そして、池上先生や十名先生と学ばせていただいた京大の社会人大学院のことも懐かしく思い出されました。」(多田憲一郎)

「昨日は、素晴らしい、画期的な、記念すべきシンポジウムにご一緒できて、至福の至りです。横田さんの波多野先生へのリプライも、また、研究人生のご報告も感動致しました。濱さんも、お母様の御具合が思わしくない中で、平常心にてご報告ご対応されましたこと、敬服致します。」(熊坂)

「働学研のような場づくりの意義の大きさ、改めて確認できました。人間は集い合うと、個人の内側に何か生まれ、外には協働の成果が実る、このことが実感できます。」(濱)

「最後の十名先生のまとめも、この働学研の意義と達成を余すところなく伝えて感動的でした。」(波多野)

なお、各位の発表と議論については、<付記1 発表&議論のポイント>をご覧ください。  
また、働学研月例会の今後の予定などについては、<付記 10-12月働学研のお知らせとお願い>をご覧ください、  
どうかよろしく申し上げます。くれぐれもお大事に。

## <付記1 発表&議論のポイント>

### <第1部>

**波多野さんの書評(横田本)**は、本書の独創性・挑戦性・体系性など著者の「力業に触発」され、実に深く鋭く含蓄に富む、衝撃的な批評とみられる。家族像の根源と変容、生物的&社会的進化、母権性(制)と父権性(制)の相関、発情期の喪失と性的強制能力、両性間の齟齬、男女格差と性暴力の根源。さらに史的唯物論、フェミニズムを根底から問い直す。

**横田さんのリプライ**は、各論点に正面から向き合い理論的・歴史的・文化的に応える資料が提示されている。時間的な制約から、リプライは「発情期の喪失」をめぐる論点にメスを入れる。なぜ「人類史の傷跡」なのか。文化的修復のプロセス、支え合う両性関係を育むという視点の重要性。性暴力、性的強制能力とは何か、逸脱行為にすぎないのか、等々。

**藤井さんの書評(濱本)**は、行政経験で培われた疑問・問題意識を市民目線で分析し、市民と行政それぞれの深化の方向性を見事に浮かび上がらせていると評価。その上で、ご自身が携わられた環境アセスメント制度の仕組みを紹介し、合意形成に関する考察を発展。市民と行政の協働による新たな地域事例として、鹿児島県大崎町と徳島県上勝町を紹介。

**濱さんのリプライ**は、書評から得た反省とひらめきから成る。環境アセスメント制度の紹介から、「権力としての行政」と「弱者を支える行政」の二分法について反省を加え、「権力としての行政」そのものが弱者を支える機能を持ちうるという新たな認識を表明。さらに、市民と行政との合意形成や協働の要素を行政の仕組みの中に組み込むという課題を見出す。

**太田さんの書評(熊坂本)**は、研究への迸る情熱と研究成果、そして次世代を担う人達への熱いメッセージに注目し、地場産業を真正面から新たな視点で捉え直したと評価する。地場産業は「絶滅危惧種」ではない。その長い歴史の中で各地、各企業、各産業で培われ、育まれた「革新的DNA」を内に秘めた産業と捉え、オリジナルな理論を提案している。

**熊坂さんのリプライ**は、評者がゲラ段階の原稿を短時間で読み込み、本書の特徴を、地場産業の「革新的DNA」仮説とその多様で広範な事例検証との評価に、まず感謝する。評者の論点、①「ひと」に絞った研究・考察の必要性、②「循環型地場産業」が向かう方向性・考え方とSDGsとの関連性について、本書の補足説明を行うとともに研究課題も提示。

## <第2部>

横田さんの「半世紀の歩み」は、「守・破・離」と「啐啄の機」の視点から深く熱く語る。子育て中に愛媛で柳ヶ瀬先生に学ぶ。雑学の乱読・アフリカ旅行を経て、自費出版の企図と断念。京都市民大学院で池上先生のご指導で論文執筆の10年。どうまとめるか模索のなか十名と出会う。「序章」「終章」を書き上げる2年、全てを洗練化して出版に至る1年。

濱さんの「人生浄瑠璃」は、半世紀近い仕事と研究物語である。33年間、市役所で廃棄物などに携わり得難い経験を重ねる。その後、京都大学公共政策大学院生、次いで同大研究員として学び研究する。植田先生、御厨先生、池上先生の指導を経て研究が形をなしていき、十名のもとで、研究が開花・完成。博士学位取得と出版の、ダブルのゴールに至る。

熊坂さんの「8年間の軌跡」は、社会人研究者として長年にわたり「本づくり」の夢を追いかけて、十名との出会いによる方向づけと具体化、「空白の5年間」を経て昨夏、古希を機に一気呵成に編集・執筆の経緯を示したもの。最後に、「出版企画書」の作成、「序章」「終章」の持つ重み、「校正一覧表」作成の意義など、出版に至る物語とノウハウを披露された。

十名の「ライフワーク出版」は、働学研の趣旨と半世紀の歩みを通して、社会人研究者の単著書出版とその同期化が持つ意義に光をあてる。博論のみならず本づくりにおいても、新たな次元を迎えている。学び直しが国際的にも際立って低い日本社会。働学研の運動とライフスタイルが日本社会の革新、経営と仕事のイノベーションに及ぼす意義に注目する。

## <参加者&発表者からの感想>

第1部、2部の発表をふまえ、仕事と人生を深掘りし理論化・体系化・政策化することの意味を、3人の出版&博論物語を題材にしながらか語り合う。その余韻は終了後も続き、多くの方から熱いメッセージをいただく。そのうちのいくつかを紹介させていただきます。

「それぞれの書評とそのリプライ、とても刺激的でしたが、加えてこういう形式がオンラインで可能になるというのがよくわかりました。「切磋琢磨する同好の集まり」の姿がくっきりあらわれたような印象を持ちました。」(高松平蔵、ドイツより)

「とても良い企画で、長時間でしたが、まだまだ、時間が足りないくらいに思いました。とても良い時間が共有できたと思います。新たな学びの形や出版の形が見えてきた感じがしました。」(冨澤公子)

「さまざまな経歴をもった方々が参加されて学びをされていること、本当に素晴らしい「創造の場」であると思いました。そして、池上先生や十名先生と学ばせていただいた京大の社会人大学院のことも懐かしく思い出されました。」(多田憲一郎)

「昨日は、素晴らしい、画期的な、記念すべきシンポジウムにご一緒できて、至福の至りです。横田さんの波多野先生へのリプライも、また、研究人生のご報告も感動致しました。濱さんも、お母様の御具合が思わしくない中で、平常心にてご報告ご対応されましたこと、敬服致します。」(熊坂)

「働学研のような場づくりの意義の大きさ、改めて確認できました。人間は集い合うと、個人の内側に何か生まれ、外には協働の成果が実る、このことが実感できます。」(濱)

「最後の十名先生のまとめも、この働学研の意義と達成を余すところなく伝えて感動的でした。」(波多野)

## <付記2 2022年10-12月働学研のお知らせとお願い>

10-12月月例会（オンライン開催）の日程とURLは、下記の通りです。

10/22 働学研での発表申し込みをいただいている方は、下記の4名です。（見落としているかもしれません。その節は、お知らせ願います。）

中野健一、小野満、田中興念子、冨澤公子

冨澤公子：「都市部居住高齢者の“幸福な老い”へのコミュニティ要因の分析 ー京都市下京区の元学区を対象としたアンケート調査の概要」

発表をご希望の方は、発表のテーマ（イメージ）も含め、十名（tona@iris.eonet.ne.jp）までお知らせください。

ご発表のお知らせ、お待ちしております。

<第38回働学研オンライン研究会：2022年10月22日 02:00 PM>

<https://us06web.zoom.us/j/81668389149?pwd=Z1dUa1pDOWNsNmRZZWh0U0hPa0ZGdz09>

ミーティングID: 816 6838 9149 パスコード: tona1022

<第39回働学研オンライン研究会：2022年11月19日 02:00 PM>

<https://us06web.zoom.us/j/86486661464?pwd=anBzTnB3T2Y0YXlqS0FJSEd4Q0R5UT09>

ミーティングID: 864 8666 1464 パスコード: tona1119

<第40回働学研オンライン研究会：2022年12月24日 02:00 PM>

<https://us06web.zoom.us/j/84947974411?pwd=ejM0dVdaN2ZydnRGYVhWcThDR21lZz09>

ミーティングID: 849 4797 4411 パスコード: tona1224